

「いのちのかたち」

素材：アルミニウム、LED、振動スイッチ 等

大きさ：h30 × w250 × d250cm

発表場所：第 82 回国展、個展（アートカゲヤマ画廊）

発表年：2007 年

「こころの風景」

素材：有機 EL シート、鉄、IC 等

大きさ：h60 × w180 × d180cm

発表場所：個展（アートカゲヤマ画廊）

発表年：2007 年

人間が手に取り心地よいと感じるかたちのひとつに卵形がある。人類は卵から生まれてきたわけではないが、鳥類の産んだその形の中には生命が存在し細胞分裂を繰り返した後赤ちゃんが誕生することは、経験的に知っている。それゆえに、卵形を見た瞬間、手に取ったその時、たとえそれが形だけのものであったとしても、そこにあたかも生命が内包されているような錯覚に陥りぬくもりを感じる。ところがそのような形がわずかに変形したものでその卵のもつイメージとまったく相反する感覚を我々に呼び覚ますものがある。例えば弾丸、砲弾といった人間の命を奪う死のイメージに結びついたものである。今回は、卵形の持つ二面性に焦点をあてた。床面に無造作に置かれた 10 個の多様な卵形の作品は鑑賞者が自由に揺らしたり、転がしたりすることができる。そのとき中にある振動スイッチが揺れに伴い on-off し、青と赤の LED が発光する。その点滅と発光色による変化は、見る人の心の在り方によって相反する状況や感情を想起させることになるのである。それは生と死、怒りと無関心、喧騒と静寂、活気と停滞、戦争と平和といったものであろうか。

今回のシリーズでは、さらに上方に紙飛行機 10 機を円環状に吊るして並べた。幼年期に紙を折り飛ばした記憶は殆どの方が持っているのではないかと。そしてそこには各人の紙飛行機をめぐるノスタルジックな思い出があるはずである。今回はこの紙に代えて有機 EL シートを使用し、IC（半導体集積回路）で制御することで 10 台の紙飛行機が順次発光し、高速で飛

行するかのよう展示した。そこには幼年期のゆったりと空を飛ぶ紙飛行機の面影は無く、例えるなら高速で飛来するアメリカの偵察ジェット機のステルスを思い起こさせるものである。ここでは郷愁の中にあるのんびりとした紙飛行機の記憶と、テクノロジーにより情報化された同一の形象は鑑賞者の感覚を宙吊りにする。

そして、発光する紙飛行機は、鏡面に磨かれた卵形に映り込み、その表面上を限りなく旋回する。このように飛行機と関連付けられた卵形からは生命の気配が消えうせ、それが空からばら撒かれた爆弾のような感覚を引き起こす。

鑑賞者に作品とのインタラクティブな関係を提供し、体験を通して作品とその空間を感じてもらおうと同時に、作品の捉え方の多面性について気付いてもらおう企画である。



